

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第3号を下記のとおり発表したので送付します。

平成20年度病虫害発生予報第3号

平成20年6月3日
岡山県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水 稻	葉いもち ヒメトビウンカ 縞葉枯病 ツマグロヨコバイ 萎縮病 イネミズゾウムシ ニカメイガ イネドロオイムシ	並 — — — — — — —	並 やや多 やや多 少 少 やや少 並 並
ジャガイモ	疫病	—	並
モ モ	灰星病 黒星病 せん孔細菌病 モモハモグリガ ナシヒメシンクイ カメムシ類	— 並 やや遅 やや遅 並 —	並 並 やや少 やや少 やや少 やや少
ブドウ	べと病 うどんこ病 フタテンヒメヨコバイ	並 並 —	並 並 少
トマト	疫病 灰色かび病 葉かび病	並 — —	並 やや多 やや多
キュウリ	べと病 褐斑病 炭疽病	— — —	やや多 並 並
ダイコン	軟腐病 コナガ	並 —	並 少
野菜全般	アブラムシ類 モザイク病 ミナミキイロアザミウマ	— — —	やや少 やや少 並
キ ク	白さび病 ナミハダニ	— —	やや少 やや少

1. 普通作物

(水 稲)

(1) 葉いもち

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 中北部地帯の田植時期は全体的には概ね平年並であった。田植後の生育状況も概ね平年並である。

イ. 5月30日の季節予報によると、6月の気温は平年より高く、降水量は平年より多いとされている。高温の場合は発生が抑制されるが、6月下旬に曇りや雨の日が多い場合は発生を助長する要因となるので、今後の天候に十分注意する。

防除上の参考事項

ア. 本病の発生地域においては、育苗箱施用剤による防除が普及している。

イ. 育苗箱施用剤の残効は40～60日とされている。5月中旬までの田植えでは6月下旬頃から残効がなくなるので、その後病斑がみられる場合は薬剤を散布する。

イ. ウィン、デラウスなどの育苗箱施用剤を使用した圃場で、早期に病斑がみられる場合は耐性菌が発達している可能性があるため、別系統の薬剤で早急に防除を行う。

(2) ヒメトビウンカと縞葉枯病

予報内容

発生量	ヒメトビウンカ (第1世代成虫)	やや多
	縞葉枯病	やや多

予報の根拠

ア. 県予察圃場 (休閒田及び畦畔雑草) におけるヒメトビウンカの5月の発生量は平年よりやや多く、第一世代幼虫の発生量も平年よりやや多かった。

イ. 縞葉枯病は、媒介虫であるヒメトビウンカの発生量に伴い、平年よりやや多いと思われる。

(3) ツマグロヨコバイと萎縮病

予報内容

発生量	ツマグロヨコバイ (第1世代成虫)	少
	萎縮病	少

予報の根拠

ア. 県予察圃場におけるツマグロヨコバイの5月中下旬の発生量は平年より少なかった。

イ. 萎縮病は近年少発生が続いており、媒介虫であるツマグロヨコバイの発生量に伴い、平年より少ないと思われる。

(4) イネミズゾウムシ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月26日の巡回調査によると、成虫による被害発生圃場率は7.7%で平年(39.1%)より低く、株当たり成虫数は0.027頭で平年(0.033頭)並であった。

(5) ニカメイガ (越冬世代成虫)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月29日まで、赤磐市のフェロモントラップへの飛来を認めていない。

(6) イネドロオイムシ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月26日の巡回調査によると、圃場での発生は少なかった。

イ. 育苗箱施用剤及び本田施用剤が広く普及しているので、平年並に少発生が続いている。

(ジャガイモ)

(1) 疫病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月21～23日の巡回調査では発生を認めなかった。

イ. 5月30日の季節予報によると、6月の気温は平年より高く、降水量は平年より多いとされている。高温の場合は発生が抑制されるが、曇りや雨の日が多い場合は発生を助長する要因となるので、今後の天候に十分注意する。

防除上の参考事項

ア. 初発生後は異なる系統の薬剤を用い、ローテーション散布を心掛ける。

2. 果 樹

(モ モ)

(1) 灰星病 (早生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 一般圃場における5月9、22日の巡回調査では、花腐れ、芽枯れ、枝病斑の発生量は平年よりやや少なかったため、一般圃場の幼果の感染量も同様に平年並～やや少ないと考えられる。

イ. 低温と降雨日数が多い場合は発生を助長する要因となるが、5月30日の季節予報によると、6月の気温は平年より高く、降水量は平年より多いとされており、今後降雨日数が多い場合には注意を要する。

(2) 黒星病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. モモの生育はほぼ平年並に推移している。

イ. 5月22日の巡回調査では、枝上の越冬病斑密度は全般的に平年並であった。

ウ. 幼果における本病の潜伏期間は約35日 (果実生長第2期以降は20日) とされている。5月の降水量はほぼ平年並であり、幼果への感染は平年並と考えられる。

(3) せん孔細菌病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月22日の巡回調査では発生圃場率は0%で、平年(12.0%)より低かった。

イ. 5月30日の季節予報によると、6月の気温は平年より高く、降水量は平年より多いとされており、梅雨入り後の連続降雨や風を伴う降雨等で発病が助長される恐れがあるので注意を要する。

(4) モモハモグリガ (第2世代幼虫)

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、第1世代成虫の初飛来日は5月17日で平年（5月11日）よりやや遅く、5月1～5半旬の誘殺数は1頭で平年（76.4頭）より少なかった。

イ. 5月22日の巡回調査における発生圃場率は0%で、平年（0.3%）並に低かった。

(5) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生時期 並 発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、第1世代成虫の初飛来日は5月24日で平年（5月22日）並、5月1～5半旬の誘殺数は2頭で平年（6.1頭）より少なかった。

イ. 5月22日の巡回調査における心折れの発生圃場率は3.5%で、平年（1.7%）よりやや多かった。

(6) カメムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 予察灯における5月1～5半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は赤磐市では1頭で平年（36.2頭）より少なく、津山市では0頭で平年（24.4頭）より少なかった。

イ. 5月30日の季節予報によると6月の気温は平年並か高いとされており、飛来数の増加を助長する要因であると考えられる。

(ブドウ)

(1) ベと病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウ（ピオーネ）の生育（開花期）はほぼ平年並で推移している。

イ. 県予察圃場のベリーA（無被覆栽培）における5月29日までの調査で、初発生（平年：6月4日）を認めていない。

ウ. 5月22日の巡回調査では発生を認めていない。

エ. 5月30日の季節予報によると、6月の気温は平年より高く、降水量は平年より多いとされており、降雨日が続くと発生を助長する要因となる。

(2) うどんこ病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウ（ピオーネ）の生育（開花期）はほぼ平年並で推移している。

イ. 本病は少雨多照条件で発病が多いとされる。5月30日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量は平年並より多いとされており、発病を助長する要因ではない。

(3) フタテンヒメヨコバイ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 5月22日の巡回調査における被害発生圃場率は0%で、平年（4.4%）より低かった。

3. 野菜

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場（5月10日定植）では、発生を認めていない。

イ. 5月21～22日の巡回調査では、昨年同様発生を認めなかった。

ウ. 5月30日の季節予報によると、6月の気温は平年より高く、降水量は平年より多いとされている。高温の場合は発生が抑制されるが、曇りや雨の日が多い場合は発生を助長する要因となる。

防除上の参考事項

ア. 初発生後は異なる系統の薬剤を用い、ローテーション散布を心掛ける。

(2) 灰色かび病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 県予察圃場（5月10日定植）では、発生を認めていない。

イ. 5月21～22日の巡回調査では、施設栽培での発生量はやや多かった。

ウ. 5月30日の季節予報によると、6月の気温は平年より高く、降水量は平年より多いとされている。高温の場合は発生が抑制されるが、曇りや雨の日が多い場合は発生を助長する要因となる。

(3) 葉かび病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 県予察圃場（5月10日定植）では、発生を認めていない。

イ. 5月21～22日の巡回調査では、施設栽培での発生量はやや多かった。

ウ. 5月30日の季節予報によると、6月の気温は平年より高く、降水量は平年より多いとされている。本病は高温、多雨の条件で発生が助長される。

防除上の参考事項

ア. 温室やハウスでは、多湿にならないように換気する。

イ. 肥切れすると発病が多くなるので、適切な肥培管理をする。

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 5月21～22日の巡回調査では、ハウス栽培、露地栽培ともに発生量はやや多かった。

イ. 5月30日の季節予報によると、6月の気温は平年より高く、降水量は平年より多いとされている。高温の場合は発生が抑制されるが、曇りや雨の日が多い場合は発生を助長する要因となる。

(2) 褐斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月21～22日の巡回調査では、施設栽培での発生量はやや少なかった。

イ. 5月30日の季節予報によると、6月の気温は平年より高く、降水量は平年より多いとされている。本病は高温、多雨の条件で発生が助長される。

防除上の参考事項

- ア. 温室やハウスでは、多湿にならないように換気する。
- イ. 被害葉は初期に除去し、処分する。
- ウ. 肥切れや窒素質肥料の過用を避け、適切な肥培管理をする。

(3) 炭疽病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 5月21～22日の巡回調査では、発生を認めなかった。
- イ. 5月30日の季節予報によると、6月の気温は平年より高く、降水量は平年より多いとされている。本病は高温、多雨の条件で発生が助長される。

(ダイコン)

(1) 軟腐病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

- ア. 5月21～22日の巡回調査では、発生を認めなかった。
- イ. 5月30日の季節予報によると、6月の気温は平年より高く、降水量は平年より多いとされている。本病は高温、多雨の条件で発生が助長される。

(2) コナガ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

- ア. 5月1～5半旬のフェロモントラップへの誘殺数は、赤磐市では0頭で平年(80.5頭)より少なく、津山市でも0頭で平年(34.9頭)より少なかった。
- イ. 5月21～22日の巡回調査では、発生量は平年よりやや少なかった。
- ウ. 5月30日の季節予報によると、6月の降水量は平年より多いとされており、発生を抑制する条件である。

(野菜共通)

(1) アブラムシ類とアブラムシ伝搬モザイク病

予報内容

発生量 アブラムシ類 やや少 モザイク病 やや少

予報の根拠

- ア. 5月1～5半旬の黄色水盤への飛来数は、赤磐市では312頭で平年(345.7頭)並、津山市では379頭で平年(549.4頭)よりやや少なかった。
- イ. 5月21～22日の巡回調査では、アブラムシ類の発生量は平年よりやや少なく、モザイク病の発生は平年並であった。

(2) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 5月21～22日の巡回調査によると、ナスでの発生量は平年並であった。
- イ. 5月30日の季節予報によると、6月の気温は平年より高く、降水量は平年より多いとされており、降雨のない施設内では発生をやや助長する条件である。

4. 花 き

(キ ク)

(1) 白さび病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月21～22日の巡回調査では、発生量は平年よりやや少なかった。

イ. 5月30日の季節予報によると、6月の気温は平年より高く、降水量は平年より多いとされている。高温の場合は発生が抑制されるが、曇りや雨の日が多い場合は発生を助長する要因となる。

(2) ナミハダニ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月21～22日の巡回調査では、発生量は平年よりやや少なかった。

イ. 5月30日の季節予報によると、6月の降水量は平年より多いとされており、発生を抑制する条件である。

病 害 虫 発 生 予 察 情 報 テ レ ホ ン サ ー ビ ス
岡山県病虫害防除所では、主要病虫害の発生状況や防除に関する情報を迅速にお知らせするために、テレホンサービスを実施しております。気軽にご利用ください。 電話：086-955-2224
携 帯 電 話 用 ア ド レ ス の 公 開
予報、注意報、警報については携帯電話用の情報（簡易版）を公開しています。 アドレスは http://www.pref.okayama.jp/norin/nousou/kei/top.htm  QRコード

